



# まぢの達人

TATSUJIN

NPO法人 オアシス  
代表 渡邊 坂司

手品と物資支援で途上国と交流  
「マックス・ワタナベ」これが私のマジシャン・ネームだ。手品を始めたのは商社マンだった40年前。派遣先の豪州で、商談の間を持たせるために始めた。初めての海外公演は米国。在郷軍人会と保育園で披露した手品が大うけに受けた。大男が大開口開けて手足をパタパタさせて笑い、子どもたちも好奇のままざしからパッと笑顔に変わる。その瞬間、「この笑顔が最高の報酬」と、のめり込んだ。  
これまで訪れたのは62カ国。忘れられないのは、1988年モロッコの病院で、担架の上から大喜びで拍手を送る少女がいた。帰国後、地元で寄附を募って車椅子12台を贈り、翌年に

は名古屋デザイン博で使った100台を譲り受けて贈った。こうしてボランティア活動は手品と物資支援の二本立てとなった。  
その後、貧困と内戦に苦しむアフリカの子どもたちを救おうと、1996年には、「NGO オアシス・ガーナ友の会」を結成。ガーナを中心に、学校や農業指導、水源確保のため井戸を4本掘った。

今年6月、カンボジアを訪問。子どもたちが手品を食い入るように見つめていた。

- ・箱の引き出しを開ける。
- ・火煙が上がる。
- ・その瞬間「白ウサギ」が出現!

校庭を埋め尽くした400人の児童から大歓声と拍手喝さい。会場は興奮のつぼと化した。



内戦から17年、やっと子どもたちにも笑顔が戻ってきた。しかし、学校では創造性を育む授業が限られている。これを契機に、児童たちが感性豊かな人間に育ってほしいと願っている。

## 水族館

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

9月の初めに、アシカの新しいトレーナーが誕生しました。デビューしたのは、職員最若手の佐藤(20歳)です。主役であり、パートナーでもあるアシカにはアイ(4歳)が選ばれました。  
人間もアシカも若いので少し心配だったので、佐藤もアイも持ち前の努力と柔軟さでトレーニングをして、私たち先輩トレーナーが満点をつけるくらい上出来のデビューを飾りました。

### 新アシカトレーナーのデビュー

ところで、私のデビューは散々なもので、デビューまでの日数があまりにも短かったことと、何よりもアイが2歳半という若さで異例のショーデビュー(通常は性格が安定しだす3〜4歳)ということもあり、初めのうちはアイがプールへ逃げて戻ってこなくなったりするハプニングが続き、コントをやっているようでした。  
慣れないうちはアシカと息が合わなかったり、アシカがトレーナーを全面的に認めてくれないためにうまくいかないことが多く、練習では大成功でも、本番に臨むと大失敗するということもあります。自分が散々恥ずかしい思いをしたので、後輩には同じ思いをしてほしくないと思い、みっちり時間をかけてアシカとコミュニケーションをとらせました。アシカのトレーニングと同じくらい、後輩の指導も難しく、時には言葉が通じないアシカの調教のほうが楽しいこともありました。  
アイと一緒にうれしそうにステージへ出て、見事に成功させている佐藤を見ると、こちらもうれしくなり、さらに力を入れて皆さんが楽しめるショーを作っていこうという気持ちになります。